

## ネイチャーフォトグラフィー



### 「写真の中に映るもの」

樽林千種 (受講生)

水辺・里山・トレッキングなどいろんな自然にふれあえて楽しそう、スタッフや受講生に顔なじみの方が多い、そしてなにより講師の小川先生の笑顔がキュート、という不純な動機で受講を決めたネイチャーフォトグラフィー講座。機械オンチでカメラの知識も皆無の私でもついていけるのか不安でしたが、いざ始めてみると毎回とっても楽しくて、難しいことは分からないながらも「自分らしい」写真を撮りたくなる素敵な講座です。

掛川城周辺での撮影実習は、「感性のおもむくままに」ということで、青空の下のおんびり楽しい撮影タイム。受講生のみなさんが風景や建物、人物、植物、小動物、光と影・・・次々と魅力的な被写体を見つけ、積極的に写真を撮っていたなか、せせらぎに舞うイトトンボの青銀色の美しさや、水底に映るアメンボの影の面白さに心惹かれてしまったマイペースな私は、ほとんどの時間をその水辺で過ごすことに。

「ならこの里」での講座も、大好きな緑に囲まれた水辺において、モリアオガエルの卵やおたまじゃくしを観察したり、漉き紙の模様のように淡く輝く桜の葉色にみとれたり、大きな樹の幹を走る生命の鼓動を聴いたり、ひとり静かに自然に包まれて、心を解き放つような幸せなひとときに、またしても写真を撮るのを忘れてしまいそうでした。

思い思いに好きなものを撮影した後は、データをパソコンに取り込んで、その場でみんなの作品鑑賞会。これがとても勉強になりオモシロイのです。ひとりひとり心動かされるものが違う。同じもの・同じ場所を撮っても全く違う写真になる。どれが良い悪いじゃなくて、それぞれにその人らしくて素敵。写真には撮った人の想いや人となりが見えるんだなと実感します。私の撮った写真にはどんな私が映っているのか、自分ではよく分からないけれど、「ああ、あのひとらしい写真だね」と思ってもらえる作品が残せたら嬉しいなと思います。

素敵なメンバーに恵まれて、早く次の回が来ないかなと、ほんとうに楽しみな講座です。

### トレッキング



### 「自然との関わり方、楽しみ方を学ぶ」

増田 豊 (受講生)

今までは「山」と言えば、如何にして早く頂上へ到達するかしか考えたことがなかった。山へ登るには当然のことと思っていた、ところが「自然との関わり方、楽しみ方を学ぶ」に魅せられ参加したトレッキング講座は「学びと遊び」の「山」であった。

最初に登った八高山(832m)、講師の鈴木さん、山村さんから「山の楽しみは山を知ることにあり」との意気込みを感じた。草木の名前の由来を聞く。樹木や草花にあまり関心が無かったが、それなりの理由があって名前がつけられたことが分かり、思わず「覚えてい」という気になるから不思議である。だが、忘却・・・残念。八高山は掛川市の最高峰であるが、全員余裕の登山で、山頂では「抹茶」の一服があった。「こんな山の楽しみ方があったのか」と言うのが、カレッジのトレッキング講座を受講した第一印象だ。

山伏(2,014m)は行き成り急な登りだ。平地となり、やがて、皮が剥ぎ取られた痛々しい木々の間を歩く。話しには聞いたことがあるが、現実には凄まじい。鹿の食害である。そんな現実を忘れる山頂のパノラマ。好天に恵まれ遠く雪の山々が飛び込んできた。万歳。

榊形山(2,052m)。これが至福の贅沢のスローライフ登山。自然の「あやめ」を見に行くこととなった。前日の天気予報では雨は間違いなし、と思った。当日の朝も集合場所へ行くまでは雨に降られた。登山口近くになると道はダートになり、しかも前方をガスが覆い、慎重に車を進めた。登山開始となると雨の心配は無くなってきた。あやめ平のあやめは絶滅状態だった。しかし、そこかしこの二、三本のあやめに歓声が上がった。原生林の道はことさら神秘的だった。「自然の美」を書くことは出来ない。一緒に行こう、「山」へ。

メンバーは13人で内女性が9人、全員が一致団結し、助け合いながら、無理なく頂上に。これがトレッキング講座の目指すものであろう。次の山はどんな山だろう。

## 茶と器学

「茶と器学を受講して」

後藤 暢 (受講生)

私がこの掛川ライフスタイルデザインカレッジについて知ったのは、o-cha 処チャ茶に出入りするようになってから。私は磐田に住んでいます。それまで近くの掛川と言う街をそれほど知りませんでした。掛川っておもしろい取り組みをしているなと思っていました。文化的な取り組みが形になって実行されている。しかも先を、将来を見越しているところが素晴らしいと思いました。

私たち人間が人としてこの世に生を受け地球とともにこれからの豊かな暮らしを考えた時に経済的な豊かさよりも成熟した心の豊かさが必要になってきます。

「食う寝る遊ぶ」と何年前かに有名なコピーがありました。が、食べることの不安がなくなり、暮らすことの不安がなくなって、次に人が考えることは遊ぶこと。豊かさの象徴かもしれないが遊ぶということを「大人が」一生懸命にやるところに興味があると思えました。体が健康でなければ遊べません。しっかりと社会とのつながりがなければさみしいです。常識をわきまえ、集う仲間と楽しめる「大人」の遊び場が掛川ライフスタイルデザインカレッジだと感じました。

何かのご縁がありまして、私も今回「茶と器学」を受講させていただくことになりました。茶も好き、器も好きなので声を掛けていただいた時は本当にうれしかったです。お茶について o-cha 処チャ茶で小泊先生に色々教えていただいております。店番もさせていただくこともありお客様から教えていただくことも多く、お茶の持っている「チカラ」はたくさんあることを日々考え感じております。

今回お話をいただいたのも「茶」の持っている「チカラ」のお陰だと思っています。陶芸については遊びとしてはおもしろい。「難しい」何か「コト」にはまる条件を満たしています。

竹廣先生の魅力と奥様の魅力も素晴らしい。あだだけの笑顔で難しいことを楽しさに変えてくださる。やさしさがとても心地よかったです。どのような器が出来上がるのか楽しみです。これもまた一期一会。



### ダッチオープンクッキング

「マイダッチオープンを！」

榛葉貴昭 (受講生)

2004年6月、講師宅の客間にダッチオープン(DO)が鎮座していた。それは漆黒ともいえる、ある種異様な輝きを放っていた。それがDOとの初めての出会いであった…。(なんて大袈裟な)

「手間ひまかかる、面倒な万能鉄鍋」。世の中に「万能」なる商品は星の数ほどありますが、ダッチオープン(以下DO)よりも、その「万能」なるフレイズが似合うアイテムを見つけるのは困難を極めます。しかし、万能といえども、気をつけたいのは「手間ひまかかること」、「面倒」であること…。そんな長所・短所もわからないまま講座に参加した私でした。

私が一番良かったと思うのは、初回の「解説」です。ここでは、本物のDOを手にとってじっくりと見比べることができました。これはDO初心者にとって、最高のスタートだったのではないかと思います。DOに関しては様々な出版物がありますから、情報を得ることは簡単にできます。しかし、経験をつんだ講師からいろんなエピソードを聞きながらじっくりとDOを選ぶことは、おそらく出版物からではできないでしょう。



DOには野外で使いたい、家庭内で使いたいなど、その用途に応じてさまざまな種類があります。私は結局キャンプDOを選択したのですが、初回の講座で本物を触ることによって、サンブルDOの蓋を開けたときに、鳥の丸焼きが美味しそうに出来上がっているのを想像することができました。初回の講座で、私と同じような幻覚を見た受講生が必ずいるはず。 (ほら、そこのアナタ！ やっぱり見えてたでしょ？)

不思議なことに、マイDOを手に入れば、あれもこれもと料理に挑戦したい欲望が出てきます。料理の味はさておき、やっぱり道具は使ってあげることが一番！最近では地元で炭を使うイベントがあれば、マイDOを持ち出してイベント参加者に「実験台」になってもらっています。

最後に、この講座が成功したのは、山村講師と数多くのスタッフの皆様が時間と労力をかけて準備していただいたおかげであると思います。受講生を代表して厚く御礼申し上げます。来年度以降も定番の講座になるといいですね。

## Nippon 学

「11月からプログラムが始まります！」

長谷川八重 (事務局)

「食」「装」「書」「芸」「酒」という五つのテーマで、日本の格好良さ・洗練された美しさにぐっと迫ります。各回、専門講師を招き、コーディネーターと共にインターナショナルに和の心をひもときます。

ただ今スタッフは、講座を仕立て中。自身の体験を通して、今まで知らなかった和の文化の奥深さに感動しています。



例えば1月に予定している「書」

筆を使って字を書く、伝える、表現するという日本の大切な文化は、大人になってしまうとその機会は殆どなくなりませす。

8月のある日、スタッフは数十年ぶりに忘れかけている書道を体験しながら、如何にNippon学的エッセンスを加えられるか、作戦会議をしてきました。

道具を揃え、正座をして、墨をすり、筆先に集中して身体を使って文字を書く...そんな体験から少し紹介をします。

そもそも漢字は中国から伝わったもので、文字の変化の歴史には様々な書体があります。そこから生まれた日本独自の文字に「ひらがな」があります。しかし、遑て見ると漢字にはその成り立ちが分かる「金文(きんぶん)」という文字があります。例えば「山」は3つの頂(いただき)からその形になり、「鳥」はお尻の丸みや足の変形にもその名残が伺える文字です。講師の小野悦(おのえつ)先生も金文に出会い、書道の面白さを再認識されたそうです。

「書」では、技術的に上手に越したことはありませんが、文字の成り立ちがわかる古代文字で、自身の美的センスを加える書道に挑戦する事にしました。

また、2月の「酒」では打ち合わせでは

Nippon学を目指すところを講師にお話ししたところ、それなら日本酒の仕込みを見せましょう！ということになりました。

こうして、Nippon学は、講師・スタッフ・受講される方達の一期一会を大切にしながら、日本の文化の再確認が出来るような講座に仕立てています。どうぞご期待下さい。

## Nippon 学 プログラム

### 第1回 「Nipponの食」 土なべて飯を炊く

日時:平成19年11月4日(日) 9:30 ~ 14:00

内容:日本人の食文化の基本「米」。米を研ぎことから始めて、田んぼを見て、ごはんを炊く中で、米の科学、日本の景観、現代の農業や社会のあり方まで考えます。美味しいごはんの炊き方を身につけることが生活をどう変えるのか、昨年の9月セッション「うまさ120%のご飯を食べる～田んぼウォッチング&ごはん炊き」受講生は実践、実感中。

講師:長坂潔暁(ながさか きよあき)氏  
五ツ星お米マイスター。安東米店店主(静岡市在住)

### 第2回 「フェスティバル」

日時:平成19年11月25日(日)

会場:キウイフルーツカントリーJapan 11:00 ~ 15:00

内容:オーガニックファームの収穫祭、ダッチオープンパーティを兼ねたフェスティバル。受講生、講師陣、運営スタッフ、事務局が一同に会し、交流します。

### 第3回 「Nipponの装い」 着物を着る

日時:平成19年12月2日(日) 13:00 ~ 16:30

内容:日本の民族衣装である「着物」。着物を着てお抹茶をいただくとともに、日本の美しい所作を学びます。

講師:村木ともこ氏  
掛川文化協会茶道部表千家代表者  
掛川西校茶道部講師

### 第4回 「Nipponの書」 筆を使う

日時:平成20年1月20日(日) 10:00 ~ 16:00

内容:白と黒のアート書道を体験します。書は、硯の上で墨をすり、姿勢を正して筆先に気持ちを集中させる、繊細かつ大胆に半紙に表現をする文化。基本を学んで、今回は自らの筆文字で自由に新しいアートに挑戦してみます。

講師:小野悦(おの えつ)氏  
書道教授

### 第5回 「Nipponの酒」 酒を学び、酒を酌み交わす

日時:平成20年2月10日(日) 13:00 ~ 19:00

内容:日本酒が仕込まれる真只中(聖域)へ、ツアーを実施します。地域の水・米・酵母・人・技術を継承する酒「喜久酔」に日本の物作りの心を学び、酒蔵見学後は、酒席でその味を余韻と共に心深く味わいます。

講師:青島 孝(あおしま たかし)氏  
青島酒造株式会社専務取締役・杜氏

### 第6回 「Nipponの芸」 日本の芸にふれる

日時:平成20年3月2日(日) 19:00 ~

場所:掛川市八坂 事任八幡宮(このまはちまんぐう)

内容:雅楽(ががく)を見る。雅楽とは、1500年前に日本に入ってきた伝統の音楽で、時を経て形を変えず、伝承されている日本が世界に誇るべき芸術文化です。

講師:平田和仁(ひらたかずひと)氏と赤尾雅楽会  
静岡県神社庁雅楽講師